

「平成 24 年 12 月 16 日投開票の衆議院議員選挙」で 投票する前に、日本国民（有権者）が知っておくべき 政治学の常識（初回、共産主義）

社会主義政党の本性は、極めて危険！

総選挙の投票前に、**共産ロシア（＝ソ連）**の歴史から、**レーニンの共産主義**（一般に「**マルクス・レーニン主義**」と言われています）の**超極悪性の基礎のみ**を学んでおきましょう。

反戦・反核・脱原発などの見せかけの偽善を叫ぶ、**日本共産党・社会民主党**などの**社会主義政党の本性は極めて危険**です。

彼らの垂れ流す、**デマ**や**虚偽宣伝**に決して心を許してはなりません。

以下に、**レーニン時代のロシア共産党**（＝「**ボリシェヴィキ**」）

---ただし、ここでは 1917 年から 1923 年までの**レーニン時代のみ**を取りあげます。さらに後の、**さらなる悪徳の体制**であった**スターリン時代のスーパー専制政治**については、（書ききれないので）ここでは省きます。---

の**指導者たちが実際に述べた言葉**や**制限なしに恣意的に発した命令（政令）**（＝疑いのない事実）**だけ**を纏めました。

これらの**事実だけ**を読んで、総選挙で**社会主義政党**に投票する有権者が果たして何人いるのでしょうか？

■ ペトログラード軍事革命委員会（秘密警察「チェーカー」の前身）

チェーカー初代長官**ジェルジンスキー**は言った。

「これ（＝ペトログラード軍事革命委員会）は、細かい法律尊重主義とは無縁の、ただちに軍事作戦を遂行できる、軽装備の俊敏な（軍事作戦）機構である。

そこにはプロレタリア独裁の武装せる腕で敵を叩き、行動するためにいかなる制限もない」

（ステファヌ・クルトワ／ニコラ・ヴェルト著『共産主義黒書』、恵雅堂出版、62頁、（ ）内、傍点は私〔＝ブログ作成者〕の補足）

■ 「人民の敵」に対する闘争

（ユリウス暦）1917年11月13日の軍事革命委員会の声明。

「国家、銀行、国庫、鉄道、郵便、電信の高級役人はボリシェヴィキ（＝ロシア共産党）政府の施策を妨害している。

今後、これらの人間は人民の敵と宣言される。

彼らの名はすべての新聞に発表され、人民の敵の名簿はすべての公共の場所に掲示される」（同、63頁）

「サボタージュ、投機、買い占めの嫌疑のあるすべての者は、人民の敵としてただちに逮捕され、クロンシュタットの監獄に移送される」（同、63頁）

■ 「人民の敵」の概念を制度化したレーニンの署名付き布告

1917年11月28日の布告。

「人民の敵の政党である立憲民主党の指導メンバーは法律外に置かれ、ただちに逮捕されて革命裁判所に召喚されなければならない。」（同、63頁）

■ 1789年フランス革命と1917年ロシア革命の歴史的比較が好みだったレ

レーニンの決まり文句

「反革命のくずどもを抑圧する《フーキエ・タンヴィル〔フランス革命裁判所の検察官〕》を至急見出せ」（同、65頁）

「断固たるプロレタリア的ジャコバンを誰にするか」（同、65頁）

■ 「大衆の（自発性による）革命的テロル」の奨励

（1917年12月1日兵士中央執行委員会代表の前で）トロツキーは言った。

「フランス大革命の時のように、テロルは1カ月以内に猛烈なものになるだろう。

我々の敵に準備されているのはもはや牢獄だけではなく、フランス大革命の時に首を切るのに効率的だと認められたあのすばらしい発明品であるギロチンであろう。」（同、67頁）

■ ポリシェヴィキの「食料独裁」のための（農民からの）「食糧狩り」

（1918年4月29日、全露中央執行委員会で）レーニンは言った。

「我々プロレタリアが地主と資本家を打倒することが問題になった時、小地主と小有産階級は確かに我々の側にいた。

しかし、いまや我々の道は違う。小地主は組織を恐れ、規律を恐れている。

これらの小地主、小有産階級に対する容赦のない、断固たる戦いの時がきたのだ。」（同、74頁）

■ 強制的な「食糧徴発」に対して蜂起する農民共同体への「赤色テロル」

(1918年8月10日、ペンザのソビエト執行委員会に打った) レーニンの電報。

「同市諸君！君たちの五つの郷におけるクラークの蜂起は、容赦なしに粉砕しなければならない。

全革命の利害がそれを要求している。

なぜなら、今後いたる所で、クラークとの《最終的戦い》が始められるからだ。

先例を示す必要があるからだ。

- (1) 世間に知られたクラーク、大金持ち吸血鬼どもを、少なくとも 100 人以上絞首刑にすること [わたしは人々に見えるようなやり方で絞首刑にしろと言っているのだ]。
- (2) 彼らの名前を公開すること。
- (3) 彼らの穀物を全部没収すること。
- (4) 昨日電報で指示した人質の身元確認を行うこと。

これらのことを周囲何百ベルスタ [1ベルスタは約1キロ] もの人々が見て、震えながら、我々が血に飢えたクラークどもを殺しているのだ、これからも殺し続けるだろう、というようなやり方で実行するのだ。

諸君が、確かにこの指令を受け取り、実行したと返電されたし。草々。レーニン。

追伸。もっとタフな人間をみつけたまえ。」(同、81頁、[]内著者)

■ ポリシェヴィキの赤色テロの凶悪な手口「人質」、「強制収容所」

(1918年8月、ポリシェヴィキ指導部からチェーカー・党地方機関への電報で) ジェルジンスキーは言った。

「これらの(予防)措置のうちで最も効果的なのは、ブルジョワジーの中から人質をとることである。

諸君がつくったブルジョワジーから徴収された特別税リストをもとにして・・・すべての人質と容疑者を逮捕し、強制収容所に監禁するのだ。」(同、82 頁)

(1918 年 8 月 8 日) レーニンから食料人民委員ツルーパに対する政令起草の要求。

「各穀物生産地区において、最も裕福な者 25 人を人質にとり、食糧徴発計画が実行されない時には、その命をもって責任をとらず。」(同、82 頁)

■ テロルの政令による合法(?)化

(ボリシェヴィキ指導者の一人) グリゴリー・ジノヴィエフは断言した。

「我々の敵を滅ぼすには、我々は自身の(=ソビエト政府による)社会主義的テロルを持たなければならない。

我々は、ソビエト・ロシアの 1 億の住民(=国民)中、そう、9,000 万人を我々の側に引き込まなければならない。

その他の者(=1,000 万人の国民)については、何も言うことはない。

彼らはすべて殲滅されるべきである。」(同 84 頁)

■ 1918 年 9 月 5 日、ソビエト政府の政令「赤色テロルについて」

(政令「赤色テロルについて」から)

「現在の状況からして(政治警察)チェーカーを強化し、階級の敵を強制収容所に隔離することでソビエト共和国を守り、白衛軍や陰謀や蜂起や暴動と関係のあるすべての個人を即座に銃殺し、彼らが銃殺された理由を添えて処刑された者の氏名を公表することが絶対に必要である。」(同 85 頁)

(その後ジェルジンスキーが認めて言った。)

「9月3日と5日のテキストは、それまで党の同志さえ反対してきた、誰であれ身元照会なしに反革命のならず者と一緒くたに即時処刑するという権利(?)を、我々に合法的(?)に与えるところとなった。」

(同、85頁、()内：私 [=ブログ作成者])

☆ 「専制政治」・「独裁政治」に関するコペルニクスの転回

『共産主義黒書』の著者であるニコラ・ヴェルト曰く、

「(1918年9月から10月の)二カ月で約10,000から15,000(人)という(チェーカーによる)大量処刑は、およそその数からしても、帝政(ツァーリ)時代と比べて規模の大きさが全く変わってしまったことを示している。

1825年から1917年(ロシア革命)までの92年間に帝政裁判所は、《政治の分野に関して》裁判すべき全事件を通して〔軍事法廷を含めて〕、6,321(人)の死刑判決を下した。

このうちで最も多かったのは1905年の革命の反動の年である1906年の1,310(人)であった。

一方、数週間でチェーカーだけで、ロシア帝国が死刑の判決を下した者の二倍から三倍の人を死刑にしたのだった。

しかも、帝政ロシアの場合、法的手続きによって、死刑の判決を受けた者の大部分が懲役に減刑されていた。

この規模の変化は単に数字だけではない。

《人民の敵》、《人質》、《強制収容所》、《革命裁判所》といった新しいカテゴリーの導入は、《予防拘束》や、裁判ぬきの略式処刑や、新しいタイプの警察による法によらない何百、何千人の逮捕と並んで、この分野(とくに専制政治)におけるまさにコペルニクスの転回をもたらすものであった。」(同、88頁)

■ レーニンの思想の本質

レーニンは言った。

「よきコミュニスト（＝共産主義者）は、よきチェキスト（＝虐殺主義者 or 殺人狂）でもある」（同 88 頁、（ ）内：私 [=ブログ作成者]）

■ アストラハンの虐殺

『共産主義黒書』の著者であるニコラ・ヴェルト曰く、

「（ヴォルガ河口近くのアストラハンの町で）ストライキを行っていた労働者に合流した兵士は、ボリシェヴィキの本拠を襲って、何人かの指導者を殺した。

この時アストラハン県軍事革命委員会議長のセルゲイ・キーロフは《あらゆる手段を使って白軍のシラミどもを一掃》するように命じた。

・・・チェーカーの分遣隊は町へのすべての道を閉鎖した。

はち切れんばかりにいっぱい牢獄から出されたスト参加者と反乱兵は、平底船に乗せられた後、首に石を付けられて何百人もが、ヴォルガ川に沈められた。

（1919 年）3 月 12 日から 14 日（の 2 日間）にかけて、2,000 から 4,000 の間のスト参加者と反乱兵が、銃殺されたり、溺死させられたりした。」（同、96～97 頁）

■ 労働の軍事規律化

（1920 年 3 月第九回党大会で）トロツキーは言った。

「人間は生まれつき怠惰の傾向を持っている。

資本主義の下にあっては、労働者は生きるために仕事を探さなければならない。

働く者を駆り立てるのは資本主義市場である。

社会主義の下では《労働資源の（ボリシェヴィキ政府による）利用（＝統制・強制）》が市場にとって代わる。」（同、97頁）

■ 食糧（飢餓）という武器

（1919年12月6日、**チャーカー**が政府に送った**報告書**から）

「最近では、食糧供給の危機は、ますます深刻化しています。
飢餓が労働者大衆をさいなんでいます。

労働者にはもはや働き続けるだけの体力がなく、寒さと飢えが重なって、日毎欠勤する者が増大しています。

もし、食糧供給の問題を可及速やかに解決しない時は、多くのモスクワの冶金工場で絶望にかられた労働者大衆は何でも---ストライキ、暴動、蜂起---やりかねない状態です。」（同、97～98頁）

（1920年2月1日、食糧という武器について）**レーニン**は**トロッキー**に言った。

「パンの配給は、今日決定的に重要な輸送部門で働いていない者には減らし、働いている者には増やすべきだ。

何千もの人間が（飢餓で）死んでもやむを得ないが、国家は救われなければならない。」（同、98頁）

■ コサック解体---「ソビエトのヴァンデ」、ドンとクバンのコサックの抹殺

（1919年1月24日付け、**党中央委員会の秘密決議**に定められたコサック

解体計画)

「コサック (=ロシア帝国辺境の防人の身分) に対する内戦の経験に鑑みて、政治的に正しい唯一の方法は、富裕なコサックに対する容赦のなき戦い、大量テロルである。

彼らは最後の一人まで殲滅され、肉体的に抹殺 (=殺戮) されよう。

(実際に、1919年2月半ばから3月半ばまでの数週間で、ボリシェヴィキの分遣隊は8,000人以上のコサックを処刑する等々した。)(同、107~108頁)

■ 「階級にもとづく」大量虐殺 = 「新しい世界が建設されつつある」という理由で正当化

(キエフのチェーカーの新聞『赤い剣』から)

「我々はブルジョワジーが《下層階級》を抑圧し、搾取する目的で考え出した道徳や《人間性》の古い体系を拒否する(狂人かつ悪人である)。

我々の道徳 (=悪徳) は先例のないものであり、我々の(非)人間性は、すべての形の抑圧と暴力を破壊するという新しい理想 (=さらに徹底的な抑圧と暴力) に基づいているが故に、絶対的なもの (=絶対悪) である。

我々にはすべてが許される(と妄想している)。

なぜなら我々は、人類を抑圧し、隷属状態に追いやるためでなく、鎖から解放する (=狂人ルソーの言葉) ために、(人類に) 剣を振りかざす(という自家撞着の)、(フランス革命のジャコバン党などのテロル集団を除く) 世界で最初の者 (=超狂人集団) だからである。

・・・流血だと?

多くの血が流れるままにまかせよ! (?)

けだし血のみが悪徳のブルジョワジーの黒旗を、革命の旗である赤旗の色に永久に染めることができるからだ。

けだし古き世界の最終的な死だけが、ジャッカルの再来から永久に我々を開放することができるのだ! (??)

(→完全な精神異常の領域。治療の余地なし。すなわち、共産主義者とは、精神的・思想的異常者と考えるべき。)」(同、111頁)

■ 究極の悪徳、食糧徴発政策 (=国民餓死政策)

(1920年は、不作であったにもかかわらず、翌年の播種のための種籾も含めて、(徴発隊によって)すべての予備が徴発された。1921年1月以降、農民には食べるものが全く無かった。2月になると死亡率が上昇した。2、3カ月のうちにサマーラ県では体制に反対する一揆や反乱が事実上、止んでしまった。)

サマーラ県代表のヴァヴィーリンは言った。

「今日では、(飢え過ぎて)もはや反乱はありません。
新たな現象が見られます。

何千という飢えた群衆が、静かにソビエト執行委員会や党を昼も夜も取り囲んで、奇跡的に食物が到着するのを待っています。

人々が毎日虫けらのように死んでゆくのですから、これらの群衆を追い立てるわけにはいきません。

・・・県下では90万人が飢えていると思います。」(同、130頁)

(食糧徴発の避けることのできない結果を十分承知しながら、政府はいかなる措置も講じなかった。飢餓が多く地域を襲っている時に)レーニンとモロトフは党地方委員会と県委員会の全指導者にあてて次のように要求した。

「(食糧)収集機構を強化し、農村住民に完全納税の政治的・経済的重要性を説明して盛んな宣伝活動を行い、・・・現物税収集機関が党の権威と国家の全懲罰機構とを活用するようにせよ！」(同130頁)

(1922年3月19日、レーニンが政治局メンバーに宛てた手紙から)

「・・・我々の敵（＝黒百人組の聖職者）は大きな戦略的失敗を犯している
とわたし（レーニン）は思う。

現時点は、彼らにではなく、我々（共産党）にとってきわめて有利なのだ。

我々には、首尾よく敵の頭に瀕死の一撃を与え、（自分達だけが）今後数
十年間にわたって必要不可欠な立場を確保する、99%のチャンスがあるの
だ。

飢えた人々が人肉を食らい、道に何十、何百という死体が転がっている今
こそ、この瞬間だけが、容赦のない力で教会財産を没収する（＝強盗する）
ことができる〔したがって没収すべき〕チャンスなのだ。

・・・今において我々が目的に到達できないことは、すべてが指し示して
いる。

なぜなら飢餓によって生み出された絶望だけが、我々から見て大衆の好意
的態度、少なくとも中立的態度をもたらすことができるからだ。

・・・シューヤの反徒の裁判はできるかぎり速やかに行われるべきこと、
その際に、シューヤ及びモスクワと他の教会センターの多くの黒百人組に
は、銃殺以外の措置はあり得ない。

・・・死刑にされる反動的聖職者と反動的ブルジョワの代表の数が多けれ
ば多いほど、我々にとっては好都合であろう。

もはや今後何百年間もいかなる抵抗も考えつかぬように、すべてこれらの輩
に直接訓練を与えることになるからだ・・・。」（同、134~135頁）

以上、エドモンド・バークを信奉する真正保守主義者、平成24年11月17日
（土）、神戸市にて記す。